

	目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	ブルーシズンシップ —日産のCSR—	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者意見
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

CEOメッセージ



カルロス ゴーン
日産自動車株式会社 社長兼最高経営責任者 (CEO)

持続可能な社会の実現に貢献することは日産の事業の礎であり、イノベーションの原動力です。ゼロ・エミッションの電気自動車「日産リーフ」から、最先端の安全技術にいたるまで、日産が市場に送り出してきた画期的なクルマや技術は、よりよい世界を実現したいという思いから生まれたものです。未来に向けてクルマを開発することは日産の事業を強化するだけではありません。社会の発展とモビリティの向上、そして安全と環境という今最も重要な課題の解決に貢献するクルマを生み出すことでもあります。

クルマは1世紀以上にわたって経済の発展に寄与し、多くの人々に移動の自由を提供してきました。しかし進歩には痛みが伴います。世界では毎日3,000人以上が自動車関連の事故で命を落としています。その多くが人為的ミスによるものです。米国では、事故原因の93%を占めます。さらに交通量の増加や通勤の長距離化によって生産性が阻害され、CO₂やその他排出ガスの問題は深刻化しています。近年、世界の年間CO₂排出量は300億トンを超えており、少なくともその20%は運輸部門に起因します。

世界をリードする自動車メーカーとして、日産には、クルマが世界の発展と繁栄に寄与し続けられるよう努める責任があります。そのためにもクルマの使用に伴う負の側面を減らし、クリーンで効率的な輸送によるメリットを拡大していかなければなりません。この目標を達成するため、日産はさまざまな取り組みを始めています。事業活動を通じた水資源や大気の保全、CO₂排出量の抑制、再生可能エネルギーの活用推進もその一環です。さらに、クルマの利用法と社会への影響そのものを変えようと取り組んでいるのが、自動運転技術の実用化です。

	目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	ブルーシズンシップ —日産のCSR—	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者意見
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

自動運転技術は輸送業界における新たなフロンティアになると期待され、エネルギー効率の向上、渋滞の緩和、事故の低減などに寄与し得る大きな可能性を秘めています。今後、法制度の整備が進み、政府や業界パートナーとの連携をより一層強化することができれば、交通事故による死亡・重傷者ゼロの実現はさらに近づきます。

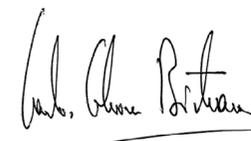
日産は2020年までに自動運転技術を市場に投入することを目指しており、複数の車種に搭載して順次発表していく計画です。2013年には、これまでの開発の成果を世界各地で公開しました。日本では、自動車メーカーとして初めて公道実証実験のためのナンバープレートを取得しています。また、安倍首相参加のもと東京都内の一般道を走行し、日産の自動運転技術を実証しました。日産は、電気自動車（EV）である「日産リーフ」の投入によってEV市場のパイオニアとなりましたが、自動運転技術の分野でも最前線に立っていることを誇りに思います。

日産は今後も自動車業界のゼロ・エミッションリーダーであり続けます。「日産リーフ」は2010年12月の発売以来、4大陸、35カ国で11万台以上*1販売されました。EV市場におけるグローバルシェアは現在、業界トップの45%です。アライアンスパートナーであるルノーと合わせると、EVの2013年のグローバル販売台数は6万6,800台以上となり、両社の合計シェアは60%を超えています。

日産は、自動運転技術の分野においてもEV同様の高い成果を収めることを目指しています。しかし重要なのは競争に勝つことではありません。「ゼロ・エミッション」「ゼロ・フェイタリティ*2」の未来を築くことです。

自動運転の実現は、持続可能な社会を目指す日産の総合的な取り組みとも一致します。例えば日産は、新車のCO₂排出量を2050年までに2000年比で90%まで低減するための努力を続けています。また「持続可能な開発のための世界経済人会議（WBCSD）」や「国連グローバル・コンパクト」など、目標の実現に資する社外でのさまざまな活動にも継続的に参加しています。

「人々の生活を豊かに」という企業ビジョンのもと、日産はこれからも革新的で使いやすく、環境に優しい製品を送り出していきます。自動運転技術の実用化が視野に入りつつある今、安全かつ持続可能なモビリティ社会の到来は近づいています。日産は、その新たな時代をリードしていけると確信しています。



カルロス ゴーン
日産自動車株式会社
社長兼最高経営責任者（CEO）

*1 2014年3月時点

*2 交通事故による死亡・重傷者数実質ゼロ